

「2016機器展示会 in QVC」同時期開催！ 映像サービスを支える機器、 4Kエンコーダー比較展示に注目

「Inter BEE 2016」会期中の11月16日～18日、同会場の幕張メッセからほど近い「QVC SQUARE」にて、「2016 機器展示会 in QVC」が開催され、ミハル通信(株)(神奈川・鎌倉市、二ノ宮隆夫社長)やソニービジネスソリューション(株)(東京・港区、宮島和雄社長)らが出展した。ここではその模様をレポートする。

ミハル通信の監視ソリューション すでに約30局が採用

「2016 機器展示会 in QVC」は一昨年に初開催され、今年で3回目の開催となった。テレビショッピングを主体とした通信販売業を行う(株)QVCジャパンの本社である「QVC SQUARE」の見学会や、展示会場でのケーブルテレビの監視や送出ソリューション展示、4Kエンコーダーのデモなどが行われた。

展示会場でまず目に入ったのがミハル通信のブース。CATV監視装置「MSV-CATVRA-JE」などによるケーブルテレビ統合監視ソリューションや、AM/FMラジオチューナー内蔵音声エンベッダー「MAEB-SDIRA-JE」などを展示していた。

ミハル通信のケーブルテレビ統合監視ソリューションは、ヘッドエンドから出力されたQAM信号やOFDM信号、BS-IFなど、ケーブルテレビで扱う全ての信号をポーリングしながら、1台で全チャンネルを監視できるのが大きな特長。RFのレベルやBER、MER、TSの同期状況などをチェックできるほか、実際に放送される映像を静止画としてキャプチャーし、その時間経過による変化を分析してフリーズやブラック/ブルー等の判定を行うこともできる。エラーが発生した場合は監視コントローラーに信号を送り冗長系に自動で切り替えたり、担当者にメールで報せたりすることも可能だ。コンパクトな機器で映像サービスの監視を行えると好評で、2014年度に発売以来すでに約30局が採用しているという。

AM/FMラジオチューナー内蔵音声エン

ベッダー「MAEB-SDIRA-JE」は、データ放送にラジオサービスを追加するための機器をオールインワンで提供するもの。内蔵されたAM/FMチューナーでラジオ音声を受信し、エンコードした上で、映像サービスのHD-SDI信号の空き音声チャンネルへ最大16チャンネル/8ステレオペアの音声信号を重畳。こうして生成された信号を用いることで、ケーブルテレビのコミチャンネルでのデータ放送でラジオサービスを容易に実現することができる。ラジオ以外にもさまざまな音声を多重できるので、災害情報や行政からのお知らせなどを発信することも可能だ。データ放送でのラジオサービスはユーザー人気も高く、引き合いの多い機器だという。

ソニーの次世代APCや 4Kエンコーダーの比較デモも

ソニービジネスソリューションは、4K/HD自動番組送出システムを展示。現在同社が販売している「SWEV-N100A」の後継モデルとなる同機種は、4K/HDのサイマル制御による混在編成や、CMSから送出サーバーへの番組自動転送機能などを有している。「Inter BEE 2016」のソニーブースでも展示されていたが、「2016 機器展示会 in QVC」ではGUI



ミハル通信のケーブルテレビ統合監視ソリューションの展示



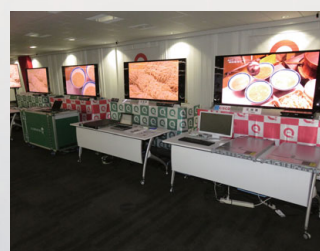
ミハル通信のAM/FMラジオチューナー内蔵音声エンベッダー「MAEB-SDIRA-JE」

にスポットを当てた展示を行い、ほぼマウス操作だけで完結する容易な操作性など、使い勝手の良さをアピールしていた。

さらには、4台の4Kエンコーダーが並べられ、同じ4K映像ソースをライブエンコーディングし、同設定の4Kテレビ画面上に映し出す映像比較展示を実施。シスコシステムズ、エリクソン、エレメンタルテクノロジーズ、ハーモニックの4社のエンコーダーが13.5Mbpsの帯域で送られてきた映像をエンコードし、4K対応STBを介した上で4Kテレビに出力。画質や遅延の違いが一目でわかり、多くの来場者を集めていた。



ソニーの4K/HD自動番組送出システムのGUI



4社の4Kエンコーダーの映像比較展示が行われた